

労使研

労使関係研究協会

〒105-0014
東京都港区芝2-20-12
友愛会館9階
一般財団法人日本労働会館内
TEL.03-3453-5386
FAX.03-3451-1710
<http://roshiken.net/>
roshiken@rodokaikan.org

「情報」第66号 2024年9月

友愛会創立を記念する会

112周年記念式典・パーティー、119人が一堂に



「友愛会創立を記念する会」は1965年、友愛会・総同盟関係者33人の発起人が呼びかけて開かれました。以来毎年8月1日に開催。今年も8月1日午前11時から、支援団体、個人会員、招待者など119人の参加を得て行われました（高倉明会長、後援：連合）。

記念式典は河野電力総連会長代理の司会で始まり、物故者黙とう、主催者代表挨拶、来賓祝辞（連合、民社協会、政策研究フォーラム。祝辞概要は次ページ）と続きました。新型コロナウイルスの影響で会の進行に一部変更がありましたが、寺門日産労連会長の乾杯発声で開宴、和やかな歓談のひとときを持ちました。

支援団体は海員組合、基幹労連、基金労組、交通労連、JP労組、自治労連、電力総連、日産労連、UAゼンセン、味の素労組、JX金属労組、凸版労組、三菱自工労組、(株)友愛会館、(一財)日本労働会館の15団体。



主催者代表あいさつ

友愛会創立を記念する会 松浦昭彦副会長（U Aゼンセン会長）

本日は友愛会創立を記念する会、大正元年から112周年、多くの関係者の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。

私はまだ現役の立場であり、私からすると諸先輩の方々が多くお見えである。昨今の状況は皆さんご存知のとおり、物価が上がりだして賃上げがそれになかなか追いつかない、頑張っているけれど追いつかないという状況だ。諸先輩の皆さんからすれば、たかだか3%くらいで大騒ぎするなど仰りたい方もいると思う。私も組合活動を始めたころは5%、7%のベアというのは経験があるので、それほど大騒ぎしないでも、とは思う。だが30年続いてきた流れを変えるというのは、また一山二山越えないといけないところもあり、人口が増えない国のなかで、量が増えないなかで生産性を上げていかなければならない。新しいやり方で、これから賃金が上がる、生活が向上していく世界を作っていかなければならない。そのことに私達もこれからますます努力をしていきたいと思っている。

温故知新、故きを温ねて新しきを知る。この112年の歴史の中で、いろいろな労働運動の中での節目節目があったと思っている。私達もこの日を契機にしながら、しっかりと歴史を学びながら次の運動に活かしていきたい。創立を記念する会の皆様には今後ともこの労働運動、さらにご支援ご指導を賜るようお願い申しあげて、代表してのあいさつとする。



来賓祝辞

連合（日本労働組合総連合会） 芳野友子会長

友愛会創立を記念する会の盛会誠におめでとうございます。

私が組合活動を始めたのは全金同盟の時代。若い世代の役員の方々に「同盟」の話をして、連合ができて35年、歴史的な背景はなかなか理解されないかも。しかし歴史はしっかりと受け継いでいかなければならないと、改めて今日のこの場で感じている。

連合運動の最近の課題について触れたい。一つめは2024春季生活闘争について。今年は5%以上の目標を掲げて取り組んだ。33年ぶりの高水準、5.1%という結果を出すことができた。これも組合役員の方々の努力の賜だと思う。改めて皆さんに敬意を表したい。

連合は旗振り役として、街頭宣伝行動や決起集会を集中的に行い、政労使の意見交換会も3回実施することができた。また、47都道府県の地方版の政労使会議も実施することができた。これは歴史的に意義のあったものではないかと思うので、続けていきたい。

今年の春季生活闘争で連合として重点をおいたのは、中小・小規模事業所がどれだけ賃上げができるかということ、とりわけ地方に視点をあてて闘ってきた。中小・小規模事業所が賃上げをするということは、原資をどれだけ確保できるかということになる。労務費を含む価格転嫁、価格交渉、環境整備、この3つを訴えてきた。

私達がつけているものが適正な価格で売られているのか、買う立場ではいいものをより安く、という気持ちになってしまう。安く買ってしまうと、そこで働いている労働者の価値を下げてしまうことにもなる。適正な価格で、物の値段をしっかりと受け止めながら消費をしていきたいと思う。その意味で来年の賃上げも頑張っていきたい。

もう一つは、連合会長に就任以来、ジェンダー平等、多様性推進について強く訴えてきた。国際会議ではパリテ、男女比50%が既に達成されている。最低でも40%というふうになっている。連合本部の女性役員比率は40%を超えることができたが、まだまだ構成組織、加盟組合では意思決定の場への女性の参画が遅れており、引き続き国際社会から取り残されることのないよう、しっかりと取り組んでいきたい。そして、女性、若者が労働組合に関わることによって組織が活性化、そして議論も幅広くなっていくと思う。引き続き皆さんにも背中を押していただければと思う。今の組合活動は課題が非常に多岐にわたるが、地に足の着いた、現場主義を貫いて活動を続けていきたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。



民社協会 河合孝典代表

現在民社協会の6代目の会長を仰せつかっている。協会を代表し友愛会創立を記念する会の式典が今年も盛大に開催されたことに、心からお慶び申しあげたい。

国際情勢が混沌とする中、国内政治も相当に国民の皆さんのストレスがたまる状況になっている。昨年末からの通常国会では裏金問題等、目を覆わんばかりの不祥事が連続している。2、3日前には参議院議員会館で、岩手県選出の参議院議員が詐欺容疑で家宅捜索を受けた。政治に対する不満、不信を大きくされていると思う。

第二次安倍内閣発足以来10数年、幾度も国政選挙が行われたが、自民党は一強状態から滑り落ちることはなかった。自民党・公明党による独断的な政治に代わってどこに政権を委ねるのかという時に選択肢がなく、自民党一強状態を温存してしまっている。我々政治家は改めて顧みなければいけない。自民党に勝つことを目的化して政策も理念も横に置いて、ただ選挙の協力だけをするを繰り返していけば、民主党の失敗を繰り返すことになる。我々が政権を担ったらどういふ国作りをするのか、そのビジョンも含めて明確に国民の皆様にお示しする政治を行わなければいけない。



民社協会所属議員は現在7名であり、国民民主党に所属して活動している。その活動は連合の重点政策を頂戴して、すりあわせを行ったうえで、100%連合政策を実現させるための努力を進めている。

もう一つ連合の応援を受けている政党があるが、連合政策と必ずしも足並みが揃わない。選挙で勝つためにあらゆる勢力と迎合し、誰かに頼った瞬間に言いたいことが言えなくなる。その状態から脱却できるよう覚悟を決めることが必要だ。同盟・友愛会の皆さん、そして我々民社協会は覚悟を決め、我が身のためではなく身を捨ててでもこの国の将来を、明るい未来を切り拓くためにどうあるべきかを考えていきたい。引き続きの連携とご指導をよろしくお願い申しあげる。

政策研究フォーラム 谷口洋志理事長



1912年8月1日に始まった友愛会の創立を記念する会が、このような盛大な形で開催されるのは大変素晴らしいことで、改めてお祝い申しあげる。政研フォーラムは、自由公正連帯を理念とする団体である。河合先生からも話があったが、最近では民主主義に対する信頼感が壊れてしまうような事例がたくさん出ている。改めて強靱な民主主義というものを政研フォーラムでは追求していきたい。

もう一つは、全体主義・権威主義を排するという立場である。4月に行われた衆議院補欠選挙東京第15区でトップ当選された立憲系の方、彼女の得票率は29%だった。有権者の何%が入れたかという点で見ると、11.8%である。それでトップ当選した。それから7月に行われた東京都知事選挙でや

はり元立憲の方が立候補されたが、彼女の得票率は18.8%の票を得た。投票率を加味すると有権者のわずか11.3%しか票を得なかった。これがいわゆる立憲共産党の得票力である。

それに対して、当選すれば共産党に足を引っ張られる。共産党が降りたらずっこけるわけなので、結局は共産党に左右されざるを得ない。共産党というのは全体主義そのもの。民主主義の価値、自由の価値も損なわれはじめています。これに対してたいへん危惧をもつ。

話はズレるが、東京都知事選挙で今回のように56人も立候補したら、最小限1.8%プラス1人の票で当選できることが理論的に成り立つ。そういった少数の人の支持しか得られていない人が、いちばん票を集めたからと選出されているのか。民主主義の価値とは何か。多数決とは何か。…ということ投げかけていると思う。

7月に行われたイランの大統領選挙、そして同じくフランスの国民議会の総選挙では、1回目で過半数を取らないと、2回目の上位2人による決戦投票ルールがある。

ちなみに現在の東京都知事は46%の得票率だったが、有権者ベースでは26%の支持率だった。それでも東京都を代表する知事になった。選挙制度は今のままでいいのか、多数決は、民主主義はどうあるべきか。こういったことを政研フォーラムでは今後考えていきたい。

◆友愛労働歴史館の新しい取り組み

全国出張講演の実施について

友愛労働歴史館は、友愛会創立100周年の2012年8月1日に新装オープンした友愛会系労働運動、社会運動に関する歴史資料館です。

友愛労働歴史館は、①友愛会以来の日本労働運動、②友愛会ゆかりの政治活動、③ユニテリアンゆかりの社会運動、に関する史料館をめざしています。新規事業として、今年度から常設展示「日本労働運動の100年余」の歴史を広く知らしめることを目的に「出張講演」も積極的に行うこととしました。

時間や講演内容については、以下の例を参考に、ご相談ください。

[定番コース]

- ①60分コース<基礎簡潔編・一般向き、職場役員及び執行委員向き>
ようこそ友愛労働歴史館へ（日本労働運動発祥の地）
第一部 労働運動前史 福澤諭吉とユニテリアン
第二部 戦前の労働運動 1897年（明治30年）～1940年（昭和15年）
第三部 戦後の労働運動 1946年（昭和21年）～
第四部 友愛会、鈴木文治・松岡駒吉のメッセージ

- ②90分コース<基礎編・執行委員及び職場役員向き>
常設展示スライド使用「日本労働運動の100年余」
①の詳細版

- ③90分コース<詳細編・執行委員向き>
日本労働運動の100年余から民主的労働運動を探る
②の詳細版

[オプションコース]

- A生産性運動三原則 20～30分
Bリーダーシップ論の基礎 20～30分
C労使関係論（コーポレートガバナンス）
D労働組合にとってなぜ政治が必要なのか 60分以上

講師料は無料、旅費交通費は今年度から財団で負担します。
その他、日程・講演内容等について早めにご相談ください。

Tel. 050-3473-5325



友愛労働歴史館メール

東京観光・出張・研修の宿泊は
ローズステイ東京芝公園をご利用ください



ローズステイ東京芝公園
公式WEBページ